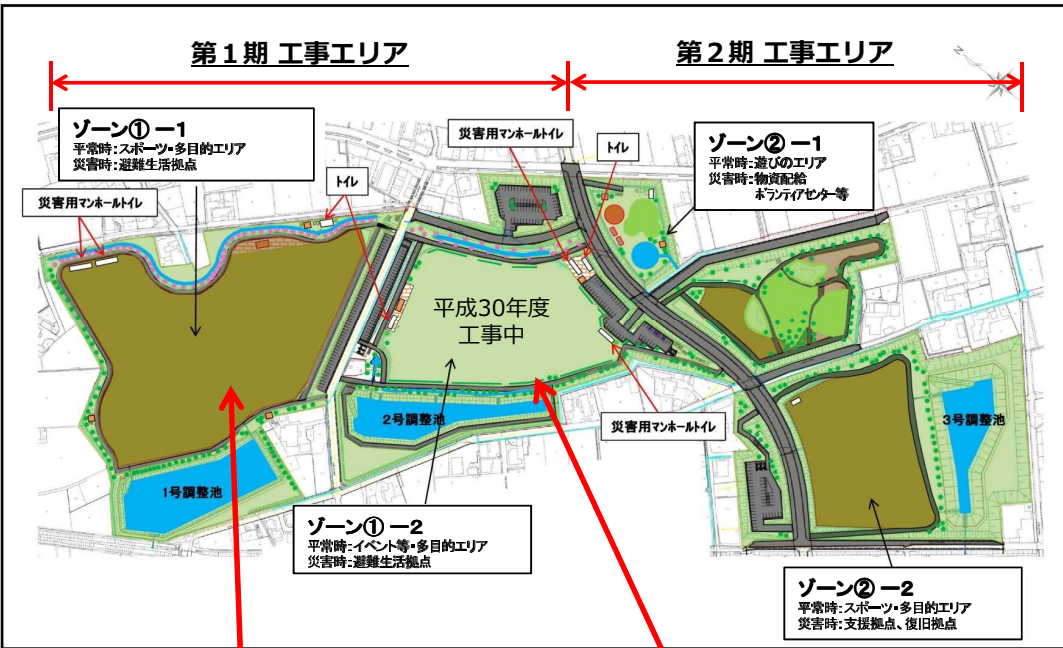


(仮称)大井川防災広場整備計画(案)

全体整備計画平面図



ゾーン①-1

スポーツ・多目的エリア

【平常時の利用】

- 平常時は、サッカーや少年野球等のスポーツができる広場



【災害時の利用】

- 発災時は、一次避難地として利用
- 復旧・復興時は、応急仮設住宅建設用地として利用



ゾーン①-2

イベント等・多目的エリア

【平常時の利用】

- 平常時は、ピクニック、市民運動会、盆踊り(自治会・町内会の行事イベント)、航空祭の観覧場所としても利用できる芝生広場



【災害時の利用】

- 発災時は、一次避難地として利用
- 復旧・復興時は、応急仮設住宅建設用地として利用



防災ひろば通信

(仮称)大井川防災広場

平成31年1月 第3号

焼津市 都市政策部 公園・地籍課

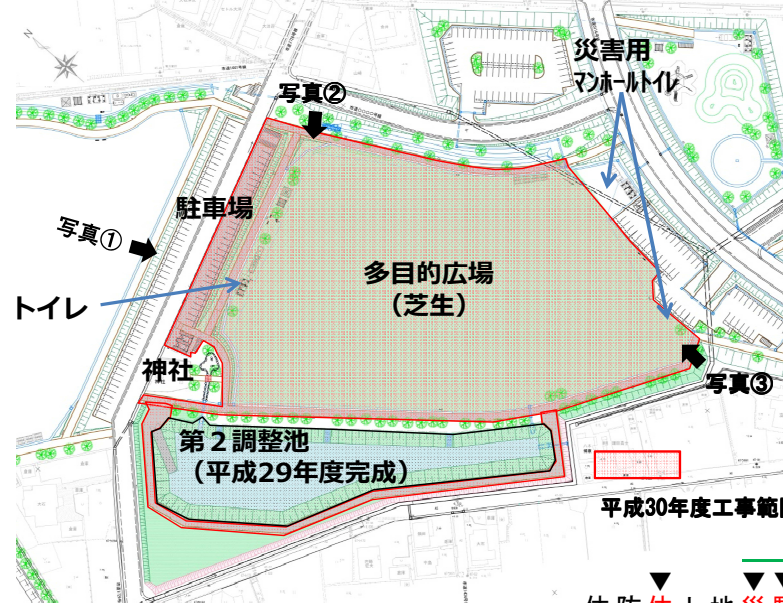
TEL 054-626-2165

E-mail: koenchiseki@city.yaizu.lg.jp



防災広場の施設整備をすすめています。

平面図(ゾーン①-2)



防災広場中央部(ゾーン①-2)の施設整備をはじめました。
完成は、来年3月末を予定しています。
多目的広場、園路などを整備し、芝生の養生期間を設けた後、来年の秋頃に一般開放する予定です。

ゾーン①-2の施設整備をはじめました。

平成30年度の整備について(ゾーン①-2)

- ▼**広場の整備**
芝生の種を吹き付けて緑化します。芝生を整備することで、多目的に利用できます。
- ▼**園路・側溝の整備**
広場の管理道として、園路の整備と、調整池に雨水を導く側溝を整備します。
- ▼**駐車場の整備(33台)**
▼**トイレの整備**
災害用マンホールトイレの整備
- ▼**休養施設の整備**
地下にコンクリート製の便槽を埋設し、災害時に仮設トイレとして使用します。
- ▼**防災パーゴラ、かまどベンチなどの災害時に使用できる休養施設を整備します。**

※裏面もあります。

平成30年度の植栽樹木と防災施設



シラカシ(白樫)

常緑の高木です。シラカシの名は伐採直後の材が白いことから由来しています。

防風樹として垣根などに使われることが多い樹木です。4月～5月に開花し、その年の秋にドングリができます。北側駐車場、第2調整池付近の園路沿いに植栽します。



イロハモミジ

モミジの基本種。「イロハカエデ」が本来の呼び名です。葉っぱが5～7に大きくさけることから、イロハニホヘトの文字をあててイロハモミジ（イロハカエデ）と呼ばれるようになりました。春の芽だしと共に花が咲き、プロペラ付の実がなります。熟すと二つに別れ飛んでいきます。神社周辺に植栽しますが、秋の紅葉が楽しみです。



サツキ(サツキツツジ)

旧暦の5月に花が咲くことから皐月(サツキ)と名前が付きました。高さは1mほどになり、枝は横に広がります。

【サツキとツツジの違い】サツキは植物分類学上、ツツジと同じ仲間です。ただ、開花時期が遅く、季節感が異なることから、区別されてきたそうです。開花時期以外の相違点は、枝ぶり、葉の光沢に違いがあります。東、西側の園路沿いに植栽します。



災害用マンホールトイレ

ひとたび大規模な災害が発生すると、トイレが使用できなくなるなどの問題が発生します。平成7年の阪神・淡路大震災、平成16年の新潟県中越地震では、広範囲で水洗トイレが使えなくなり、トイレが汚物で溢れる状態になりました。また、車中泊をしていた被災者がトイレを控えず、水を飲むことを我慢していると血液が濃縮して血栓ができてやすくなることで、エコノミークラス症候群により体調を崩すといった事例も報告されています。その後も、平成23年の東日本大震災、平成28年の熊本地震でもトイレに不自由し、健康被害につながった事例が多く報告されています。

これらを受けて、災害時に快適なトイレ環境を確保することは、避難生活における重要な課題と認識されました。



地下にコンクリート製の便槽を埋設します。日常は表面にマンホール蓋だけが見えている状態です。



使用する際はマンホール蓋を開け、簡易トイレをセットします。プライバシーは簡易テントで守られます。平成30年度は、2基(38穴)のマンホールトイレを整備します。

2基(40穴)
※平成32年度整備予定

【平成30年度整備】
2基(38穴)

